

第41図 トレンチ配置図 ($S = 1/5,000$)

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|---------------------|-----------------------|----------------|--|
| ① | 1.0×16.0 | ピット3(中世～近世か) | なし | 完新世段丘崖下の旧河道部。耕土直下で河川堆積層。河川堆積層上面に遺構。 |
| ② | 1.0×21.0 | なし | なし | 段丘崖下の旧河道部。耕土直下で河川堆積層(砂礫)。 |
| ③ | 1.0×19.0 | なし | なし | 完新世段丘の段丘崖。耕土直下で旧耕土層。 |
| ④ | 1.0×9.0 8.0×7.0 | 溝状遺構4(中世墓か) | 土師質土器皿 | 段丘崖際の微高地上。耕土直下に遺物包含層。単独で完結する溝が周溝状に3.0×2.5mの範囲を方形に囲む。埋土に炭化物を含み、塚墓の可能性がある。ただし埋土は一様でない。 |
| ⑤ | 1.0×22.0 | ピット3(古代以前か) | なし | 微高地上。耕土直下で旧耕土。西半部は旧河道(砂礫層)。 |
| ⑥ | 1.0×20.0 | ピット2(中世か) | 須恵器・サヌカイト | 微高地上。耕土直下に遺物包含層。 |
| ⑦ | 1.0×20.0 | ピット1・溝1(中世か) | 須恵器・土師質土器 | 微高地上。耕土直下で旧耕土。 |
| ⑧ | 1.0×21.0 | ピット3(中世か) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ⑨ | 1.0×21.0 | 土坑1・溝1(中世か)、溝1(古代以前か) | なし | 段丘崖際の微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ⑩ | 1.0×21.0 | 落ち込み1・溝1(縄文晚期) | 縄文土器浅鉢・サヌカイト剥片 | 微高地上。耕土直下で旧耕土。その下に縄文包含層。遺物の包含量は通常程度。 |
| ⑪ | 1.0×17.0 | 溝1(中世) | 須恵器・土師質土器 | 微高地上の浅い侵食谷部。耕土直下に黒褐色粘質土(中世以前の水田耕土か)。それを切り込んで溝が開削される。 |
| ⑫ | 1.0×19.0 | ピット1・溝2(古代以前) | なし | 微高地上。耕土・旧耕土直下に基盤層。 |
| ⑬ | 1.0×19.0 | ピット1 | なし | 完新世段丘崖下の旧河道部。河川堆積層上面にピット。 |
| ⑭ | 1.0×9.0 2.0×5.0 | 土坑2・溝1(古代以前) | なし | 段丘崖際の微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ⑮ | 1.0×31.0 | 溝1(中世)・溝3(古代以前) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ⑯ | 1.0×28.0 1.0×5.0 | 土坑1・溝1(古代以前)・溝1(中世) | 縄文土器 | 微高地上。耕土直下に遺物包含層(縄文)。 |
| ⑰ | 1.0×16.0 | ピット4・溝1(中世) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ⑱ | 1.0×17.0 | なし | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |

第21図 各トレンチの概要(1)

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|---------------------|----------------------|--------------|----------------------|
| ⑯ | 1.0×30.0 | ピット2・溝4(古代以前)・溝1(中世) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ㉑ | 1.0×23.0 3.0×7.0 | ピット1・溝状遺構1(縄文) | 縄文土器・サヌカイト剥片 | 微高地上。耕土直下に遺物包含層(縄文)。 |
| ㉒ | 1.0×23.0 | ピット2(中世) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |
| ㉓ | 1.0×23.0 | 溝1(古代以前) | なし | 微高地上。耕土直下に基盤層。 |

第2工区(平成14年度工区)

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|--------|--------|--------------|--|
| ㉔ | 0.8×17 | なし | なし | 微高地縁辺。段丘形成以前とみられる旧河道埋上のシルト・砂礫層。 |
| ㉕ | 0.8×18 | ピット1 | 黒色土器碗1・須恵器甌1 | 微高地上。全面が旧河道埋土(シルト・砂・砂礫層)であり、不安定な土層堆積状況。河道埋没後にピットが掘り込まれる。 |
| ㉖ | 0.8×17 | 土坑(?)1 | サヌカイト剥片1 | 微高地上。淡黄褐色シルトの基盤層に、やや壊った炭化物粒を含む土坑状の落ち込み(剥片出土)。 |

第2工区(平成15年度工区)

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|----------|----------|------------------|---|
| ㉗ | 0.8×19.5 | 土坑1・ピット6 | 弥生土器・サヌカイト石器・須恵器 | 耕作土・床土直下で淡黄褐色シルトの遺構面を検出した。現地表から遺構面までの深度は0.3mである。検出遺構には土坑3基・ピット6基があり、遺構の時期は弥生時代前期・古代・中世である。また、トレチ東端で検出された旧地形(谷斜面)には、弥生時代前期～近世初頭の遺物包含層が検出された。 |

第22表 各トレチの概要(2)

財包蔵地「北代遺跡」の範囲内で、新たに切土による設計変更案が施工直前に提示されたため、保存協議の資料を得る目的で10月15日に試掘調査を行った。さらに次年度以降の事業も具体化してきたため、2工区の平成15年度施工範囲と、平成16年度以降に施工予定の3工区についても、12月9日に分布調査を実施した。その後、1月31日に2工区(平成15年度工区)を対象に試掘調査を行った。

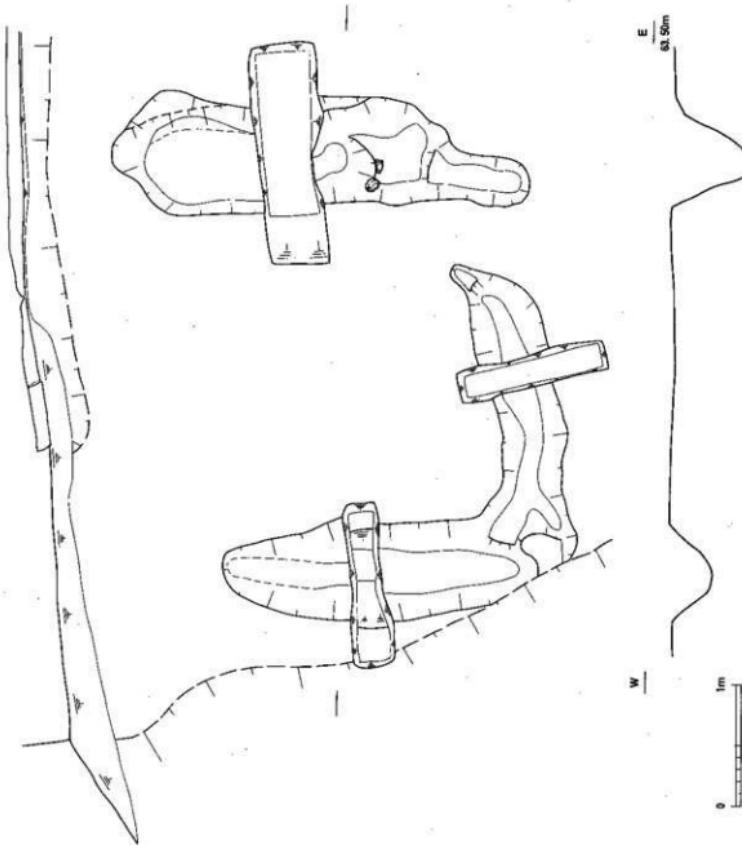
(調査結果)

a. 1工区(北代遺跡)

北代遺跡の北端にトレチ1箇所を設定し、遺構の分布状況と深度に留意して調査を行った。その結果、耕作土直下に暗灰褐色沙質土の薄層が水平堆積しており、その下で淡黄褐色シルトを基盤とする遺構面を検出した。検出遺構には土坑3基・ピット6基があり、遺構埋土には①砾を多量に含む暗灰色粘質土(SK 01・02: 弥生時代前期)、②暗黒色粘土ブロック(SK 03・SP 01・02・06: 古代)、③暗灰色砂質土(SP 03～05: 中世)の3種がある。また、トレチ東端で検出された谷斜面には、遺物包含層(弥生時代前期～近世)が堆積していた。

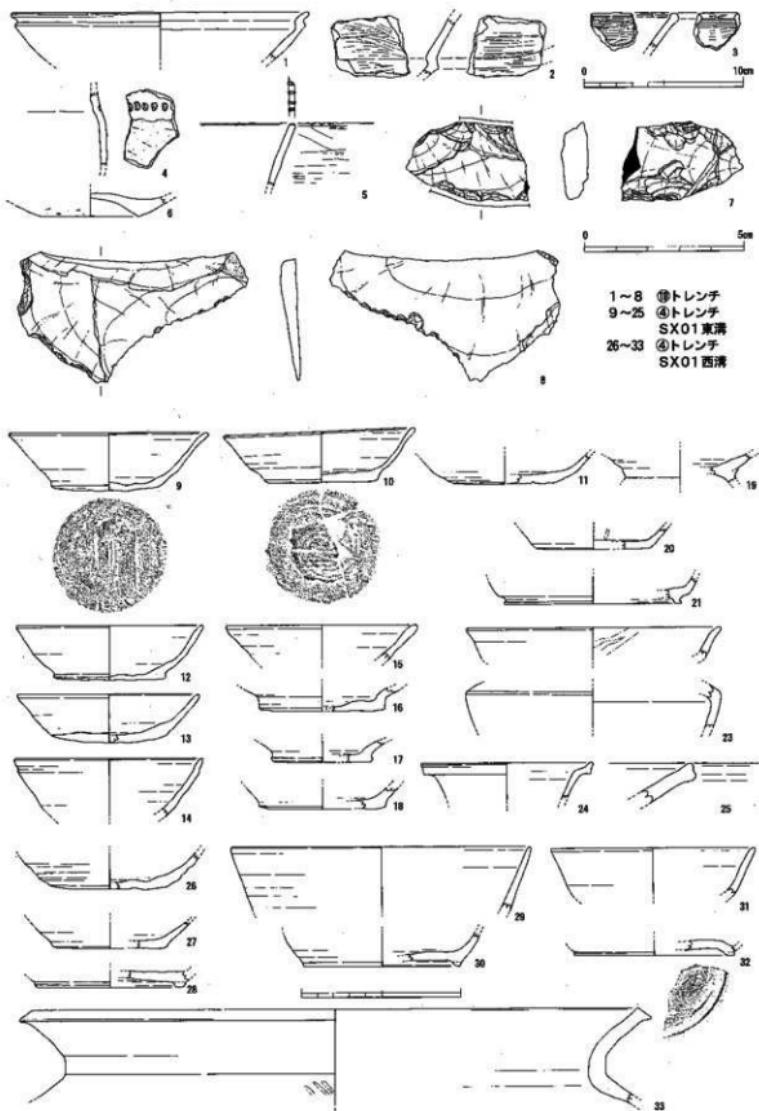
b. 2工区(平成14年度工区)

地形的には完新世段丘(古代末～中世初頭に形成と考えられる)より高位の微高地と、段丘以下の旧河道にあたり、東側に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地「北代遺跡」と同一の微高地である。このため微高地上での遺構の広がりと、旧河道部での遺構の有無、の2点に特に留意して22箇所のトレチを設定した。



第42図 S X 01 平・断面図 (S = 1/40)

調査の結果、微高地土のはば全面で縄文時代から中世に至る遺構の広がりを確認できた。微高地土には、旧河道（⑤トレンチ）や谷（⑪トレンチ）が認められたが、これらは段丘崖形成以前の旧地形を反映しているとみられ、段丘崖形成前後には埋没している。縄文時代晩期（突帯文土器以前）の遺物包含層は、こうした旧地形（特に⑪トレンチの谷筋）の縁辺に堆積・形成されたものと推測できる。縄文時代包含層での遺物量は特に⑪トレンチで多く、また遺存状況が良好である。縄文土器浅鉢（第43図1～3・6）、深鉢（4・5）、サヌカイト製石器（7・8）などがある。微高地頂部の⑬・⑭・22トレンチで検出された古代以前の遺構についても、縄文時代まで遡る可能性がある。



第43図 2工区 (H14年度工区) 出土遺物 (S = 1/3、石器は 2/3)

④トレンチでは、東・西・南3方を溝で囲む方形周溝状の遺構S X 01（第42図）が検出されたため、付近を拡張して発掘調査を行った。溝で区画された範囲は、南北3.2m以上・東西2.5mであり、各辺の溝は両端（隅部）が浅くなっている。溝内から多量の土器が出土しており（第42図）、土師質土器杯（9～11・13～15・18・26）・平高台板（12・16・17）・台付杯（19）・土師器壺（25）・須恵器杯（20・21・27～32）・皿（22）・長頸瓶（23）・壺（24）・甕（33）などがある。これらは特に須恵器に8世紀代まで遡るもののが認められるが、土師質土器は10世紀代の様相を示しており、遺構の時期もここに求められよう。東辺溝には土師質土器が多く、西辺溝には須恵器が多い傾向が認められた。西辺溝埋土に基盤層ブロックが含まれ、本来は区画内に盛土が存在していた可能性が指摘できる。また炭化物も多量に含むことから、S X 01の性格としては火葬墓のマウンドと周溝の可能性が考えられる。なおS X 01西辺溝は段丘崖肩部の堆積土に切り込まれていることから、段丘崖の形成が10世紀以降に生じたと推測される。

段丘崖下の旧河道部では、河道の埋没後のビットがみられた。しかしその分布は散在的で、時期も明確でない。おそらく中世以降に埋没河道部が再開発され、比較的安定した地点が部分的に利用されたことを示すのであろう。

C. 2工区（平成15年度工区）

平成14年度工区の西側微高地に3箇所のトレンチを設定した。

調査の結果、①・②トレンチでは河川埋土が全面にみられる不安定な堆積状況が認められた。段丘上とのため、古代末の段丘崖形成に先立つ旧河道といえる。河道埋没後の遺構は極めて希薄でビットが1基確認できたのにとどまり、遺物の出土量も僅少である。また③トレンチではより古い基盤層が検出できただが、サスカイト剥片を伴う土坑状の落ち込み以外には遺構が認められず、基盤層の削平も顕著であった。

（まとめ）

1工区については、遺構面までの深度、遺構密度とともに平成12年度の試掘調査（②トレンチ）成果と同様であることがわかった。周知の埋蔵文化財包蔵地「北代遺跡」の範囲内は、現在の地形では顕著な起伏が認められない完結した微高地である。このため、遺跡範囲内には同様の深度・密度で遺構が分布していると判断でき、開発行為の際には事前の保護措置が必要である。以上の成果を踏まえて中讃土地改良事務所と再協議を行い、当該事業地を盛土による現状保存とすることで合意した。

2工区（平成14年度工区）については、文化財保護法にもとづく事前の保護措置が必要な範囲は、第41図のように判断できる。なお今回の保護措置必要範囲を「北代西遺跡」と命名する。試掘結果を踏まえた協議により、④トレンチ周辺は記録保存の措置を行い、他の範囲は盛土による現状保存が図られることが合意した。

2工区（平成15年度工区）で北代西遺跡西側の工区は、試掘の結果、事前の保護措置は不要と判断した。また北代西遺跡北側は、微高地頂部であり北代西遺跡の範囲に含まれると判断できたため、中讃土地改良事務所と協議した結果、盛土による現状保存で合意した。

5. 県営ほ場整備事業（綾南南部地区）

（位置と経緯）

綾歌郡綾南町大字陶字森末（精華工区）・飼野上（飼野上区その5・6）に所在する。地形的には、綾上町との境界付近の丘陵（標高100m前後）から北に多数派生する細長い尾根と谷部にあたる。従来の試掘・立会調査により、尾根部は耕作地に伴い顯著に削平されていることが判明しており、やや傾斜の緩い丘陵末端部や谷部において窓跡・集落遺跡の存在が確認してきた。こうした経緯も踏まえて今年度事業地内の分布調査を行ったが、遺物もほとんど散布しておらず、遺跡の存在する可能性はかなり低いと判断できた。このため今年度は、施工時に数カ所の地点でトレンチ掘削を行い、埋蔵文化財包蔵

地が確認された時点で再協議を行うことで中譲土地改良事務所と合意した。精華工区では平成14年7月19日に、飼野工区では平成14年7月30日と9月3日・17日に調査を行った。

(調査結果)

a. 精華工区

東側丘陵に4箇所(①～④トレンチ)、西側丘陵に2箇所(⑤・⑥トレンチ)設定した。③・④トレンチは窯跡の有無を、①・②・⑤・⑥は集落遺跡の有無を検討するために位置を考慮した。その結果①～④トレンチでは、表土直下に純まりの悪い褐色・赤褐色粘質土が0.5～1.0m程度堆積しており、その下で基盤層とみられる淡褐色白色粘質土が検出された。表土下の褐色粘質土層は、丘陵部の耕地化に伴う大規模な削平・盛土を示唆しているよう。遺構・遺物は全く検出できなかった。⑤・⑥トレンチも同様な土層堆積状況である。やはり遺構は検出できなかつたが、周辺でサヌカイト剥片2点・弥生土器1点・須恵器3点・近世陶磁器数点が採集された。

以上から、精華工区は後世(おそらく近・現代)の地形変容が顕著なことが明確である。ただし遺物の散布状況から、⑤・⑥トレンチの南側(斜面上方: 対象地外)には埋蔵文化財包蔵地の存在する可能性があり、後日切土の際に立会を行ったが、遺構・遺物とともに確認できなかつた。

b. 飼野工区(その5)

窯跡の存在を想定して尾根斜面を中心で7箇所のトレンチを設定した。その結果、①トレンチでは耕作土下の暗灰褐色砂質土から8～9世紀の須恵器杯が数点出土したが、窯跡や関連遺構の存在は確認できなかつた。その他のトレンチでは耕作土直下に顕著に削平された基盤層があり、③トレンチで土坑1基(近世以降か)や近現代の粘土採掘痕が検出されたのにとどまつた。

c. 飼野工区(その6)

赤坂下池窯跡(事業地外)が所在する谷筋に合流する谷部に3箇所のトレンチを設定した。その結果、①トレンチでは耕作土下に自然堆積層(谷埋土)が遺存しており、12世紀頃の須恵器甕片が若干量出土した。上方(南側)斜面は事業地外であるが、窯跡が存在する可能性がある。②トレンチでは削平された基盤層が検出され、遺物は出土しなかつた。



第44図 調査位置図(「瀧宮」)



写真58 精華工区東側丘陵



写真59 精華工区西側丘陵



第45図 トレンチ配置図 ($S = 1/5,000$)

(まとめ)

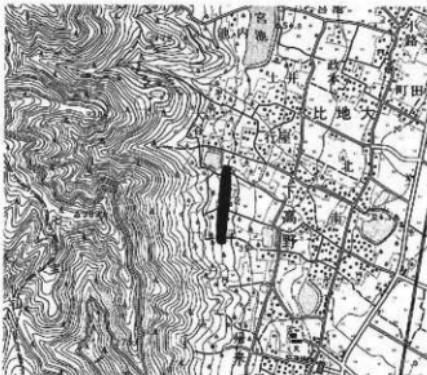
精華工区については事前の保護措置は不要であるが、⑤・⑥トレンチ南側の事業地外には遺跡が存在する可能性があるため、今後も引き続き埋蔵文化財の有無を確認することが必要である。

飼野工区も事前の保護措置が不要であるが、その6工区南側の事業地外の丘陵部には須恵器窯跡が存在する可能性があるため、今後も引き続き埋蔵文化財の有無を確認することが必要である。

6. 県営単独緊急農道事業（桑山地区）

(位置と経緯)

県営単独緊急農道（桑山地区）は、七宝山塊東麓（扇状地）を南北に横断する路線である。周辺の丘陵上では、古墳・寺院の他に散布地・集落遺跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が広範に分布する。平成13年度には、西讃土地改良事務所（当時三豊土地改良事務所）と協議し、全線の分布調査を行った上で試掘箇所の提示を行った。今年度はこれ



第46図 調査位置図（観音寺）



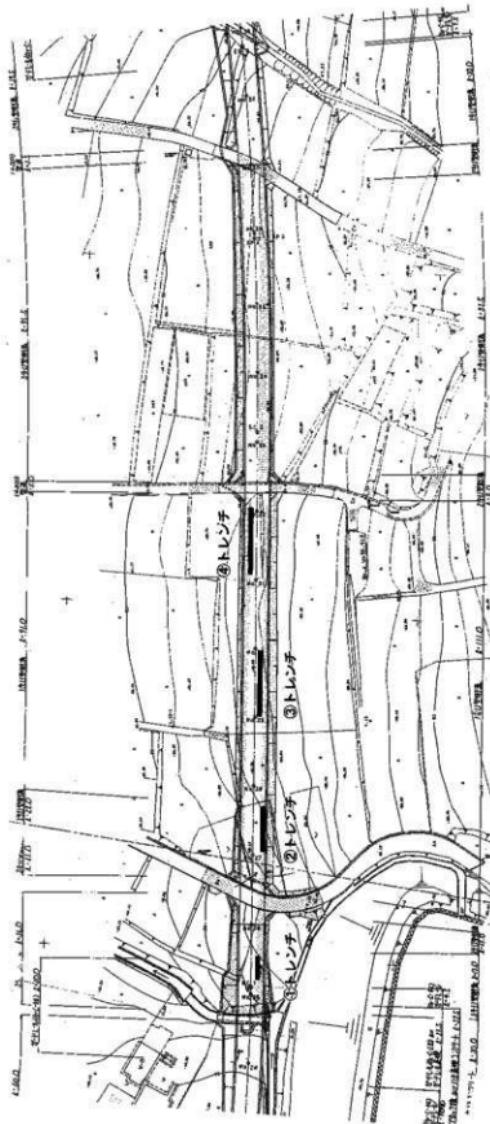
写真60 ①トレンチ土層



写真61 ②トレンチ

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|----------|----|----|-----------------------------------|
| ① | 0.8×6.5 | なし | なし | 丘陵北斜面。木根痕とみられる新しい時期の痕跡あり。全体に削平顕著。 |
| ② | 0.8×12.5 | なし | なし | 丘陵北斜面。木根痕とみられる新しい時期の痕跡あり。全体に削平顕著。 |
| ③ | 0.8×18.5 | なし | なし | 丘陵頂部。溝状の落ち込みはあるが、自然地形か。全体に削平顕著。 |
| ④ | 0.8×20.0 | なし | なし | 丘陵頂部～南斜面。全体に削平顕著。 |

第23表 各トレンチの概要



第47図 トレンチ配置図 ($S = 1/1,000$)

にもとづき試掘時期について協議を行ったが、事業予定地への重機の進入方法などに問題があるため、今年度は当該年度に施工する範囲について試掘調査を行うことになった。調査は平成14年10月30日に行った。

(調査結果)

トレンチを4箇所設定した。調査の結果、ほぼ全面にわたって旧地形の削平・搅乱が顕著であることが確認できた。遺構状の痕跡は、いずれも自然地形や果樹園に伴う木根痕とみられ、明確な遺構と判断できるものはなかった。また遺物も皆無であり、本来的に埋蔵文化財包蔵地は存在しなかったものと推測される。

(まとめ)

以上から今回の調査対象地については、事前の保護措置は不要である。

7. 県営ため池等整備事業（北条池地区）

（位置と経緯）

調査地は北条池北西部の汀線部分で、「北条池瓦窯跡」として周知されている埋蔵文化財保蔵地である。当該地に池の改修工事が計画され、汀線際の斜面部分については平成12年度に試掘調査を実施し、北条池瓦窯跡の正確な位置を確認した。この調査結果と工事内容・範囲を照合し、保護措置は不要であるとした。

今年度は池の改修が引き続いて行われており、北条池瓦窯跡の灰原と考えられる部分に用地境界として擁壁工事が計画されたことから工事の影響の有無を確認することと保護措置のための協議資料を得るために試掘調査を実施した。

今回の対象地区は綾歌郡陵南町陶に所在する。

試掘調査は平成15年1月14日に実施した。

(調査結果)

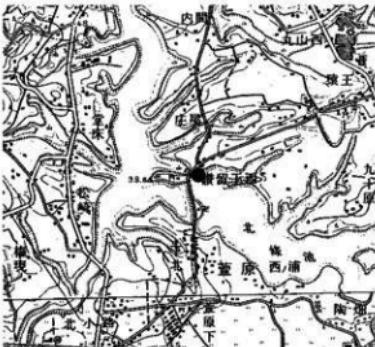
調査前の状況として調査対象地は汀線際であることから 10 ~ 20 cm 程度の砂岩の円礫と砂層がかなり堆積し、これらに混じて多量の窓壁が確認できた。前回の試掘調査で確認した北条池瓦窓跡がかなり削平を受け、窓の底部のみが確認されていることから、これらの窓壁は窓の上部が崩落し、汀線際に転落したものと考えられた。

トレンチは灰原の広がりと深さを確認するために平成12年度に実施した試掘調査で正確な位置を確認した北条池瓦窯跡の下部の灰原と考えられる部分に設定した。

調査の結果、灰原と考えられる部分は円礫を含む黄色砂層、淡茶黄色粘質土、暗灰色砂礫混じり粘質土（流入土）、茶黄色砂混じり粘質土（基盤層）の層序となり、灰原は確認できなかった。

(まとめ)

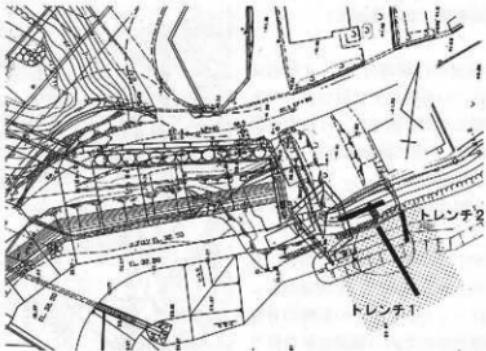
以上から、調査対象地がかなり削平・掘削されていることがわかり、基盤層上面に灰原包含層・遺構が所在しないことから埋蔵文化財に関する事前の保護措置は不要である。



第48図 調査位置図（「流宮」）

| 番号 | 規模(m) | 遺構 | 遺物 | 地形・土層堆積状況 |
|----|----------|----|------|---|
| 1 | 2.0×13.0 | なし | 瓦・窯壁 | 約10cmの礫・窯壁を含む黄色砂層、約20cmの淡茶黄色粘土質土、約30cmの暗灰色砂礫混じり粘土質土の流入土下に茶黄色砂混じり粘土質土の基盤層を検出した。灰原・遺構等は検出していない。 |
| 2 | 1.0×7.0 | なし | 窯壁 | トレンチ1と同様な土層序で、約10cmの礫・窯壁を含む黄色砂層、約20cmの淡茶黄色粘土質土、約30cmの暗灰色砂礫混じり粘土質土の流入土下に茶黄色砂混じり粘土質土の基盤層を検出した。灰原・遺構等は検出していない。 |

第24表 各トレンチの概要



第49図 トレンチ配置図 ($S = 1/1,000$ 、網掛け部分は協議範囲)



写真 62 調査区全景



写真 63 トレンチ 1 汀線際土層序



写真 64 トレンチ 1 全景



写真 65 トレンチ 2 全景

| | |
|--------|--|
| ふりがな | まいぞうぶんかざいしきつちょうさほうこく XVI |
| 書名 | 埋蔵文化財試掘調査報告 XVI |
| 副書名 | 香川県内遺跡発掘調査 |
| 卷次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 片桐孝浩・佐藤竜馬 |
| 発行機関名 | 香川県教育委員会 |
| 所在地 | 〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号天神前分庁舎 電話 087-832-3784 ~ 3787 |
| 発行年月日 | 西暦 2003年3月31日 |

| 所取遺跡名 | 所 在 地 | コード | | 北 緯 度 | 東 緯 度 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 |
|-----------------|------------------|----------------|------|-----------|------------|-----------------------------|---------------------------|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 東坂元三ノ池遺跡 | 綾歌郡飯山町 | 37385 | | 34°16'40" | 133°51'26" | 4月9~10日 | 140 | 国道438号線 飯山工区 |
| 六の坪遺跡 | 三豊郡豊中町 | | | 34°08'38" | 133°41'57" | 4月19日、 6月3~10日、 1月14日 | 133 | 本山停車場線 (本山工区) |
| 田村遺跡 | 丸亀市田村町 | 37202 | | 34°16'31" | 133°47'43" | 6月14日 | 78 | 高松丸龜線 (津森工区) |
| 津森位遺跡 | 丸亀市津森町 | 37202 | | 34°16'43" | 133°47'36" | 6月28日、 7月23日 | 80 | 多度津丸龜線 (津森工区) |
| 中東遺跡 | 仲多度郡多度津町 | 37404 | | 34°14'54" | 133°44'08" | 10月24~25日 | — | 多度津丸龜線 (奥白方工区) |
| 奥白方南原遺跡 | 仲多度郡多度津町 | 37404 | | 34°14'52" | 133°44'03" | 10月24~25日 | 140 | 多度津丸龜線 (奥白方工区) |
| 西末削遺跡 | 綾歌郡綾南町 綾歌郡綾上町 | 37382 37381 | | 34°14'41" | 133°57'14" | 7月11~12・22日 | 503 | 農業試験場移転 |
| 高須1号墳 大塚神社古墳 | 綾歌郡綾上町 | 37381 | | 34°13'17" | 133°56'21" | 11月27日 ~12月2日 | 110 | 農村振興整備事業 (綾歌郡牛川地区) |
| 大塚池1・2号墳 | 普通寺市吉原町 | 37204 | | 34°13'19" | 133°45'20" | 12月12~13日 | 24 | 農村振興整備事業 (せんつうじ地区)・ 県営ため池と総合整備事業 (大塚池地区) |
| 薄森遺跡 | 大川郡白島町 | 37302 | | 34°12'09" | 134°20'50" | 7月2~3日 | 217 | 中山間地域総合整備事業 (白島地区) |
| 北代遺跡 | 綾歌郡綾上町 | 37381 | | 34°13'26" | 133°57'10" | 10月15日 | 16 | 県営ほつ堤整備事業 (綾上山田地区) |
| 北代西遺跡 | 綾歌郡綾上町 | 37381 | | 34°13'26" | 133°57'10" | 10月16日 ~11月6日 | 537 | 県営ほつ堤整備事業 (綾上山田地区) |

埋蔵文化財試掘調査報告 XVI

香川県内遺跡発掘調査

平成15年3月

編集・発行 香川県教育委員会

高松市番町2-1-1 NTT番町ビル

電話 (087) 831-1111

印刷 セキ株式会社